

担い手の育成と売れる米生産で元気な水田農業を目指して



太陽と自然の恵み

さがえ西村山産米ブランド 「清流寒河江川」 ～安全・安心な米を消費者へ～

JAさがえ西村山 令和8年用 土づくり安心米 病虫害防除暦・施肥基準

※本防除暦は令和7年10月末現在の農薬登録内容に基づき作成しています。
使用する際は最新の登録内容を再確認して下さい。

◆ 土づくり安心米農薬散布の注意事項

- ◎農薬散布する時はマスク、手袋などを着用し、農薬事故防止に努める。
- ◎長時間の連続散布や疲れている時は、散布作業をしないように努める。
- ◎飲食喫煙する時は、石けんを用い、手や顔を洗ってから行う。
- ◎保管や使用に際しては環境への影響を十分に考慮し適正な保管・使用に務める。
- ◎飛散による危被害防止のため、散布時間、散布方法に留意するとともに隣接作物や周辺環境に十分配慮して使用する。

農薬の保管

- ・鍵のかかる農薬専用の保管場所
- ・他の容器への移し替えは絶対にしない
- ・除草剤は、他の農薬と区別して保管

毒物劇物の農薬は専用の保管庫に

- ・鍵をかけ、毒物劇物の表示

医薬用外毒物
医薬用外劇物

保管場所は直射日光のあたらない涼しい場所。火気厳禁。

作業区域周辺に気を配りましょう

風向きに注意し、近くの住宅や隣接作物に飛散しないように注意する

空容器の適正な処分

- ・野焼きは禁止
- ・農薬が残らないように（3回洗浄）
- ・許可された産業廃棄物業者に委託
- ・地域の共同回収・処分システムの活用

農薬散布後は身体・衣服をきれいに洗いましょう

他のものといっしょに洗わない

農薬の適正使用、飛散防止に努めましょう!!

さがえ西村山農産物安全・安心対策推進会議・寒河江市・河北町・西川町・朝日町・大江町
JAさがえ西村山・JAさがえ西村山水稻部会・JA全農山形・NOSAI山形



・ 営農企画部
Tel 86-8184
・ 西川営農生活センター
Tel 74-2127

・ 寒河江営農生活センター
Tel 86-8186
・ 河北営農生活センター
Tel 72-2125

・ 大江営農生活センター
Tel 62-3217
・ JAアグリ寒河江店
Tel 83-5055

・ 朝日営農生活センター
Tel 67-3535

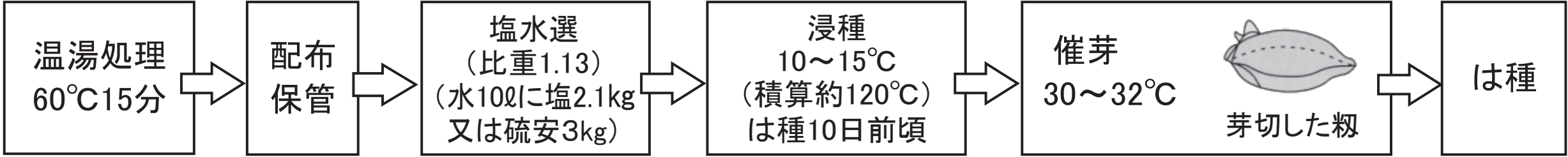
産地のこだわりを消費地へ！ 栽培管理記録簿は確実に記帳・提出を行いましょう！

I . 防 除 暦

1. 種子消毒

処 理 時 期	対象病虫害名	土づくり安心米	内 容	注 意 事 項
3 月	ばか苗病 いもち病 苗立枯細菌病	温湯処理種子 (うるち品種のみ)	薬剤処理は行わず、60℃の温湯に15分間浸漬し、直後に水で冷却する。	①『土づくり安心米』は全量温湯処理種子使用を条件とする。 ②温湯処理種子は、基本的に薬剤による種子消毒は不要。

◆ 温湯処理種子の取扱い



○保管方法……ネットのまま日陰につるす等、乾燥しやすい状態で保管。(処理しない種子と一緒にしたり、地べたに直接置かない)

ばか苗病対策には温度管理が重要

浸種作業 (は種10日前頃～)	浸種には水道水で適正な温度で管理する (水温10～15℃、積算温度120℃、最低3日1回水交換を行う)
催芽作業	種粃の最適発芽温度30～32℃で管理。品種や催芽条件により異なるため、必ず芽切れを確認する。
育苗管理	ハウス内は寒冷紗で被覆したり、換気を行いながら、30℃以上にならないよう温度管理を行う。 ばか苗病の発病している苗をハウス周辺に処分したり、生粃殻やわらを育苗資材の置床に使用しない。

◎ 例年ばか苗病が発生する場合は、以下の農薬、資材で対応を行う。(土づくり安心米で使用可能)

使 用 時 期	対象病虫害名	土づくり安心米	使 用 基 準	使用回数	注 意 事 項
催 芽 時	ばか苗病 いもち病 もみ枯細菌病 苗立枯細菌病 苗立枯病 (リゾープス菌)	エコホープDJ	200倍希釈液に24時間 種子浸漬する。	—	①本剤を使用した場合は、殺菌剤は使用しない。 ②催芽時は25～32℃の適正な水温で行う。(低温下では効果が劣る場合がある。)


※育苗箱消毒する場合は、育苗箱使用前にイチバンの500倍液に育苗箱を瞬時浸漬するか、直接散布する。残液処理は安全な方法で行う。

2. 育 苗 期

回数	使 用 時 期	対象病虫害名	土づくり安心米	使 用 基 準	使用回数	注 意 事 項
①	は 種 前	苗立枯病 (ビシウム菌 フザリウム菌 リゾープス菌)	ナエファイン粉剤	苗立枯病対策は、は種前に6～8g/箱 育苗箱土壌に均一に混和する。	1 回	①育苗器具機材の水洗いを十分に行う。 ②リゾープス菌の発生防止のため育苗中は33℃以上にしない。 ③フロアブル剤を使用する際は、よく攪拌し沈殿しないように注意する。
	は 種 時		ナエファインフロアブル	は種時 2,000倍液を1 L /箱土壌かん注する。 は種時 1,000倍液を500ml/箱土壌かん注する。	2 回	

※トリコデルマ菌が発生した場合はダコレート水和剤の500倍液を、は種時から緑化期 但しは種14日後まで0.5ℓ／箱をかん注する。(2回以内)(土づくり安心米対象外)

3. 育苗箱施用剤

回数	使 用 時 期	対象病虫害名	土づくり安心米	使 用 基 準	使用回数	注 意 事 項
②	緑化期 ～移植当日	いもち病 白葉枯病 もみ枯細菌病 イネミズゾウムシ イネドロオイムシ ニカメイチュウ ツマグロヨコバイ イネヒメハモグリバエ フタオビコヤガ コブノメイガ イナゴ類	ブイゲットパディート粒剤 	箱当たり50 g を育苗箱の上から均一に散布する。	1 回	①所定薬量を均一に散布し、茎葉に付着した薬剤を払い落とし、軽く散水して田植機にセットする。 ②移植後は湛水状態(3～5 cm)を保ち、苗が活着するまで田面が露出しないようにする。 ③本剤と除草剤を間違わないようにする。
	移植3日前 ～移植当日	イネツトムシ ヒメトビウンカ				

※ブイゲットパディート粒剤に代えてアプライパディート粒剤を使用してもよい。(土づくり安心米対象)

- (1)は種前に使用する場合は箱当たり50 g を育苗箱の床土又は覆土に均一に混和する。(使用回数1回)
※対象病害：いもち病、イネミズゾウムシ、イネドロオイムシ
- (2)は種時(覆土前)に使用する場合は箱当たり50g を育苗箱の上から均一に散布する。(使用回数1回)但し専用散布機が必要。
※対象病虫害：いもち病、白葉枯病、もみ枯細菌病、イネミズゾウムシ、イネドロオイムシ、ニカメイチュウ、ツマグロヨコバイ、フタオビコヤガ、イネヒメハモグリバエ、イナゴ類、コブノメイガ、イネツトムシ
- 注) ブイゲットパディート粒剤と使用方法を間違えないように注意する。
- ※移植後の置き苗によって、いもち病などの原因になります。速やかに処分しましょう。

農薬の適正使用、飛散防止に努めましょう!!

4. 本 田 期
除草剤をよく効かせるポイント

- ①使用のタイミングを逃さない！
 - ・ 初期一発剤の使用時期は雑草の発生前！
 - ・ 残存雑草後発雑草の発生状況を必ず確認！
 - ・ 中期剤は雑草がごく小さいうちに使用。
- ②水持ち維持は必須条件！
 - ・ 代かきを丁寧にして水持ち改善
 - ・ 畦畔からの漏水防止。（ネズミ穴、畦畔の土崩れなど）
 - ・ 除草剤をよく効かせるため散布後7日間は湛水状態を保つ。



◆ 初期除草剤 ※以下のいずれか1回のみ使用可能

回数	土づくり安心米	10a当たり使用量	使用時期	使用回数	カウント成分	注意事項
③	ソルネット1キロ粒剤	1 kg	移植時 又は移植直後～ノビエ1葉期 (移植後3日まで)	1回	1	①代掻後に初期剤を使用した場合は、移植まで必ず7日間空け、 その間落水はしないこと。 ②初期剤は代掻同時に処理できないため十分注意する。 ③エリジャン乳剤は移植同時滴下処理できないため注意する。
	エリジャン乳剤	300ml	移植直後～ノビエ1葉期 (移植後3日まで)	1回	1	
	エリジャンジャンボ	小包装(パック)10個(300g)				

◆ 初中期一発除草剤

回数	土づくり安心米	10a 当たり使用料	使用時期	使用回数	カウント成分	注意事項
④	シンゲキ 1 キロ粒剤	1 kg	移植時又は移植直後～ノビエ2.5葉期（移植後30日まで）	1 回	2	①特別栽培米においては、シンゲキ剤を使用すること。 ②サラブレッドGO剤は農薬カウント成分が多いので、土づくり安心米の最大12成分を超えないよう注意する。
	シンゲキフロアブル	500ml				
	シンゲキ豆つぶ250	250g	移植直後～ノビエ2.5葉期（移植後30日まで）			
	シンゲキジャンボ	小包装（パック）10個（250g）				
	ゼアス 1 キロ粒剤	1kg	移植時又は移植直後～ノビエ2.5葉期（移植後30日まで）	1 回	3	
	ゼアスフロアブル	500ml				
	ゼアスジャンボ	小包装（パック）10個（300g）	移植直後～ノビエ2.5葉期（移植後30日まで）			
	ゼアス顆粒	60 g				
	サラブレッドGO 1キロ粒剤	1 kg	移植時又は移植直後～ノビエ2.5葉期（移植後30日まで）	1 回	4	
	サラブレッドGOフロアブル	500ml				
サラブレッドGO400FG	400g	移植直後～ノビエ2.5葉期（移植後30日まで）				
サラブレッドGOジャンボ	小包装（パック）10個（400g）					

◆ 中後期除草剤

回数	土づくり安心米	10 a 当たり使用量	使用時期	使用回数	カウント成分	注意事項
⑤	テッケン1キロ粒剤 テッケンジャンボ	1 kg 小包装（パック）10個（500g）	移植後15日～ノビエ4葉期 但し、収穫60日前まで	1回	2	①初中期一発除草剤にシンゲキ剤を使用した場合のみ使用可能

以下の①～③の体系のいずれかを選択する。例年残草の多いほ場では、②・③の体系が有効。

	代かき				田植え																			
① 初中期一発剤のみ																								
② 初期剤 ＋ 初中期一発剤																								
③ 初中期一発除草剤 ＋ 中後期除草剤																								
田植後日数	-3	-2	-1	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20

◆ 残草対策 ※以下のいずれか1回のみ使用可能（表中の使用回数は、農薬登録上のものです。）

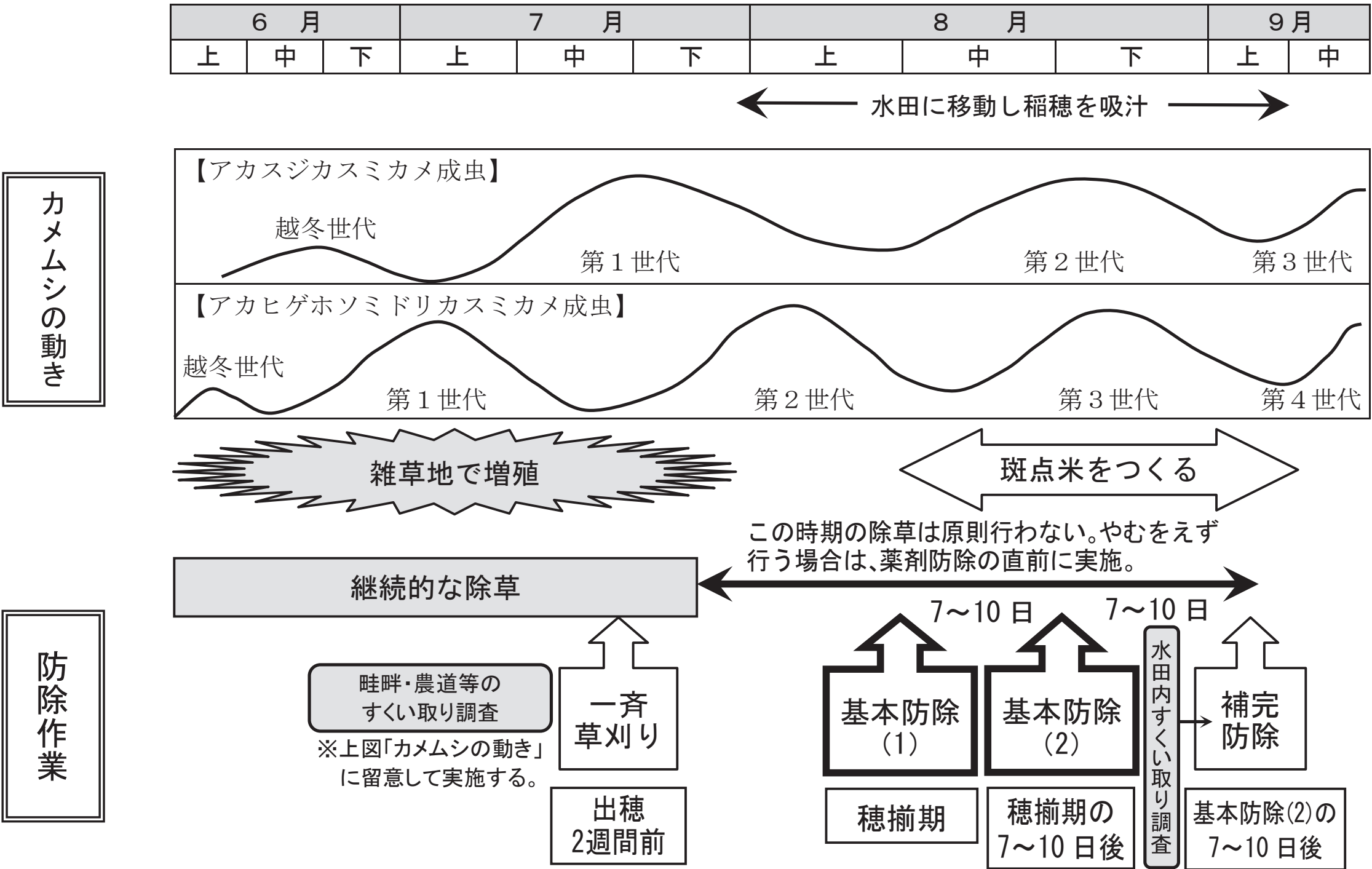
回数	雑草の種類	土づくり安心米	10 a 当たり散布量	使用時期・使用基準	使用回数	カウント成分
④	ノビエ	クリンチャー1キロ粒剤	1 kg 1.5kg	移植後7日～ノビエ4葉期、収穫30日前まで 湛水散布 移植後25日～ノビエ5葉期、収穫30日前まで 湛水散布	2回以内	1
		クリンチャーEW	薬液100ml を水で希釈して25～100 ℓ とする	移植後20日～ノビエ6葉期、収穫30日前まで 湛水散布又は落水散布	2回以内	1
		クリンチャージャンボ	小包装（パック）20個（1 kg） 小包装（パック）30個（1.5kg）	移植後7日～ノビエ4葉期、収穫30日前まで 移植後25日～ノビエ5葉期、収穫30日前まで	2回以内	1
		トドメMF1キロ粒剤	1 kg	移植後14日～ノビエ5葉期、収穫50日前まで	3回以内	1
		トドメMF乳剤	薬液200ml を水で希釈して100 ℓ とする	移植後14日～ノビエ7葉期、収穫50日前まで	2回以内	1
	水田一年生雑草（イネ科を除く） マツバイ、ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ、オモダカなど	バサグラン粒剤（ナトリウム塩）	3～4 kg	移植後15日～収穫45日前まで 落水散布又はごく浅く湛水して散布	1回	1
		バサグラン液剤（ナトリウム塩）	薬液500～700ml を水で希釈して70～100 ℓ とする	移植後15日～収穫45日前まで 落水散布（出来るだけほ場が乾いている状態で）	2回以内	1
		バサグラン・エアー1キロ粒剤	1 kg	移植後15日～収穫45日前まで 落水又はごく浅く湛水して無人航空機による散布	1回	1
	水田一年生雑草（ノビエなど） 多年生広葉雑草	ワイドアタックSC	薬液100ml を水で希釈して100 ℓ とする	移植後20日（イネ5葉期以降）～ノビエ6葉期 但し収穫30日前まで 落水散布又はごく浅く湛水して散布 ※散布は6月下旬頃まで（遅れないこと）	2回以内	1
	一年生広葉雑草及びノビエ、マツバイ、ミズガヤツリ、セリ、ウリカワ、オモダカなど	ロイヤント乳剤	薬液200ml を水で希釈して100 ℓ とする	移植後20日～ノビエ5葉期、収穫45日前まで 落水散布又はごく浅く湛水して散布又は湛水散布 ※湛水散布はオモダカ、アゼガヤに登録なし	2回以内	1
	クサネム、イボクサ	ノミニー液剤	薬液50～100ml を水で希釈して100 ℓ とする	移植後30日～収穫60日前まで 但しクサネムの草丈40cm、イボクサの茎長30cmまで 落水散布又はごく浅く湛水して散布	1回	1

※除草効果を高めるために、クリンチャーEWのみ展着剤（ハイテンパワー10,000倍希釈）を加用できる。

農薬の適正使用、飛散防止に努めましょう！！

カメムシ重点防除 ◇耕種的防除の徹底◇

斑点米カメムシ類の動きと防除作業の関係



◆ 空散防除体系

回数	使用時期	対象病害虫名	土づくり安心米	使用基準	使用回数	注意事項
⑥	8月上旬 (穂揃期まで)	いもち病 カメムシ類	ダブルカット K フロアブル	10a 当たり800ml (8 倍希釈) 無人ヘリコプターによる散布 穂揃期まで	2 回以内	①航空防除協議会で定めた使用薬剤、散布日程で行うが、天候不順などにより散布時期が遅れたり、散布間隔が長くなる場合、または病害虫が多発している場合は、補完防除を実施する。
⑦	8月中旬 (穂揃 7～10日後)	カメムシ類 ウンカ類 ツマグロヨコバイ	スタークル液剤10	10a 当たり800ml (8 倍希釈) 無人ヘリコプターによる散布 収穫 7 日前まで	3 回以内	

※ダブルカット Kフロアブルの使用が困難な場合、アミスタートレボンSEを使用する。

◆ 地上防除体系

回数	使用時期	対象病害虫名	土づくり安心米	使用基準	使用回数	注意事項
⑥	8月上旬 (穂揃期まで)	いもち病 カメムシ類	ダブルカット K 粉剤 DL ダブルカット K フロアブル	10a 当たり 4 kg 散布 穂揃期まで 10a 当たり60～200 ℓ (1,000倍希釈) 散布 穂揃期まで	2 回以内	①カメムシ被害防止対策として 2 回の基本防除は必ず実施する。
⑦	8月中旬 (穂揃 7～10日後)	カメムシ類 ウンカ類 ツマグロヨコバイ	スタークル粉剤 DL スタークル液剤10	10a 当たり 3 kg 散布 収穫 7 日前まで 10a 当たり60～150 ℓ (1,000倍希釈) 散布 収穫 7 日前まで	3 回以内	

◆ 特別防除

回数	使用時期	対象病害虫名	土づくり安心米	使用基準	使用回数	注意事項
⑧(特)	6月下旬～ 7月下旬 ・ 8月下旬～ 9月上旬	イナゴ類 (カメムシ類)	トレボン粉剤 DL トレボン乳剤	10a 当たり 4 kg 散布 収穫 7 日前まで 10a 当たり60～150 ℓ (2,000倍希釈) 散布 収穫14日前まで	3 回以内	①イナゴ類やカメムシ類の発生が多いほ場で散布する。 ②フタオビコヤガの発生が多いほ場では、トレボン粉剤 DL を10a 当たり 3 kg 散布する。
		カメムシ類	スミチオン乳剤	10a 当たり60～150 ℓ (1,000倍希釈) 散布 収穫21日前まで	2 回以内	①常襲地帯、多発生時に実施する。 ②イネの生育を考慮し防除時期を決定する。 ③イネの収穫前日数に注意して使用する。
	7月上旬～ 中旬	稲こうじ病 墨黒穂病	Z ボルドー粉剤 DL	10a 当たり 4 kg 散布 出穂10日前まで	-	①常襲地帯に実施する。 低温、多湿、日照不足で発生が助長される。 ②散布後少なくとも7日間は落水、かけ流しはしない。
	7月下旬～ 穂揃期まで	いもち病	カスミン液剤	10a 当たり60～150 ℓ (1,000倍希釈) 散布 穂揃期まで	2 回以内	①早期発見に努め初期防除が肝心。 ②耐性菌出現防止のため連用はしない。 ③ダブルカット K粉剤DL(フロアブル)と合わせた使用回数を 2 回以内とする。
	7月下旬～ 8月上旬	紋枯病	バリダシン粉剤 DL バリダシン液剤 5	10a 当たり 4 kg 散布 収穫14日前まで 10a 当たり60～150 ℓ (1,000倍希釈) 散布 収穫14日前まで	5 回以内	①はえぬきの場合、穂ばらみ後期には場中央部の発病株率が10%以上、出穂期で15%以上の場合使用する。

◆ 水稻倒伏軽減剤

回数	使用時期	用途	土づくり安心米	使用量	使用回数	注意事項
⑧(特)	出穂25～10日前まで	節間短縮による倒伏軽減	ロミカ粒剤	10a 当たり2～3kg 湛水散布	1 回	①出穂25日前頃、生育診断(生育量、葉色等)を行い、倒伏の恐れがあるところで使用する。 ②湛水で均一に散布し、ムラが生じないように留意する。 ③散布したほ場の土を、野菜等育苗用培土に使用しない。

農薬の適正使用、飛散防止に努めましょう!!

◆ 畦畔除草剤

使用時期	適用雑草	使用薬剤	使用量	注 意 事 項
雑草生育初期	水田畦畔の 一年生雑草及び 多年生雑草	ザクサ液剤 + ダイロンゾル	10a 当たりザクサ液剤 1 ℓ ダイロンゾル250ml を 水で希釈して100 ℓ とする	①イネに飛散しないように、十分注意する。 ②ザクサ液剤とダイロンゾルを混用する場合は 1 回までとする。 ザクサ液剤は収穫7日前まで、2 回以内の使用とする。 ③バスタ液剤は収穫 7 日前まで、2 回以内の使用とする。 ④ラウンドアップマックスロードは収穫前日まで、3 回以内の使用とする。 ⑤ポリネーション導入時期はミツバチやマメコバチへの影響が懸念されるため、原則使用しない。
雑草生育期 (草丈30cm 以下)		バスタ液剤	10a 当たり薬液500ml を 水で希釈して100 ℓ とする	
		ラウンドアップマックスロード		

※特別栽培米（つや姫・雪若丸）では、

畦畔除草剤の使用は原則代掻き前のみとする

水稲への飛散が確認された場合、特別栽培米の認証が取り消しになる場合があります。

使用例



①水路を挟んだ農道 ②水路側の法面

5. 令和 8 年〈栽培区分別〉水稲病害虫防除体系

項 目	時 期		主な対象病害虫・雑草	土づくり安心米タイプ			特別栽培米タイプ		
				はえぬき、コシヒカリ、あきたこまち、雪若丸		カウント成分	つや姫、雪若丸		カウント成分
種子消毒	4 月上旬		ばか苗病、いもち病 苗立枯細菌病	温湯処理		0	温湯処理		0
催 芽 時	4 月中下旬		ばか苗病、いもち病 苗立枯細菌病など	エコホープD J		0	エコホープD J		0
育 苗 期			ナエファイン粉剤 又はナエファインフロアブル		1	ナエファイン粉剤 又はナエファインフロアブル		1	
育 苗 箱 施 用 剤	5 月中下旬 (緑化期～移植当日)		いもち病 イネミズゾウムシ イネドロオイムシ イナゴ類など	ブイゲットパディート粒剤		2	ブイゲットパディート粒剤		2
本 田 期	初期 除草剤	5 月中下旬	水田一年生雑草 ホタルイなど	㊤一発除草剤体系 ㊦初期＋一発除草剤体系	㊣一発除草剤 ＋ 中後期除草剤体系		ソルネット 1 キロ粒剤 又はエリジャン乳剤 又はエリジャンジャンボ		1
				ソルネット 1 キロ粒剤 又はエリジャン乳剤 又はエリジャンジャンボ	—	1			
	初中期 一発除草剤	5 月中下旬 ～6 月上旬	水田一年生雑草 ホタルイなど	シンゲキ 1 キロ粒剤 シンゲキフロアブル シンゲキ豆つぶ250 シンゲキジャンボ	シンゲキ 1 キロ粒剤 シンゲキフロアブル シンゲキ豆つぶ250 シンゲキジャンボ	2	シンゲキ 1 キロ粒剤 シンゲキフロアブル シンゲキ豆つぶ250 シンゲキジャンボ		2
				又はゼアス 1 キロ粒剤 又はゼアスフロアブル 又はゼアスジャンボ 又はゼアス顆粒		3			
				サラブレッドGO 1 キロ粒剤 サラブレッドGOフロアブル サラブレッドGOジャンボ サラブレッドGO400FG		4			
	除 中後期 草 剤	6 月上旬 ～6 月下旬	水田一年生雑草 ホタルイなど	—	テッケン 1 キロ粒剤 又はテッケンジャンボ	2	—		—
	残 草 対 策	6 月下旬	ノビエ	クリンチャー 1 キロ粒剤 又はクリンチャーEW 又はクリンチャージャンボ 又はトドメMF 1 キロ粒剤 又はトドメMF乳剤		(1)	バサグラン粒剤 (ナトリウム塩) 又はバサグラン液剤 (ナトリウム塩) 又はバサグラン・エアー1キロ粒剤		(1)
			水田一年生雑草など (イネ科を除く)	又はバサグラン粒剤(ナトリウム塩) 又はバサグラン液剤(ナトリウム塩) 又はバサグラン・エアー 1キロ粒剤					
			クサネム・イボクサ	又はノミニー液剤					
			一年生広葉雑草およびノビエ、 ミズガヤツリ、オモダカなど	又はロイヤント乳剤					
			水田一年生雑草など (ノビエなど)	又はワイドアタックSC					
	特 別 散 布	6 月下旬 ～7 月下旬	イナゴ類、カメムシ類 (フタオビコヤガ) など	トレボン粉剤 DL 又はトレボン乳剤		(1)	—		—
		8 月下旬	カメムシ類	又はスミチオン乳剤 (注1)		(1)	—		—
		7 月上旬	節間短縮による倒伏軽減	ロミカ粒剤		(1)	—		—
		7月上旬～中旬	稲こうじ病 墨黒穂病	Z ボルドー粉剤DL		0	Z ボルドー粉剤DL		0
		7月下旬 ～8 月上旬	紋枯病	バリダシン粉剤DL 又はバリダシン液剤 5		0	バリダシン粉剤DL 又はバリダシン液剤 5		0
		7月下旬～穂揃期	いもち病	カスミン液剤		0	カスミン液剤		0
		基 本 防 除	8 月上旬 (出穂始め)	いもち病 カメムシ類 (ウンカ類)	空散防除	ダブルカットKフロアブル	2	空散防除	ダブルカットKフロアブル
				地上防除	ダブルカットK粉剤DL 又はダブルカットKフロアブル	地上防除		ダブルカットK粉剤DL 又はダブルカットKフロアブル	
8 月中旬 (穂揃 7 ～10日後)	カメムシ類 ウンカ類		空散防除	スタークル液剤10	1	空散防除	スタークル液剤10	1	
			地上防除	スタークル粉剤DL 又はスタークル液剤10		地上防除	スタークル粉剤DL 又はスタークル液剤10		
農薬成分回数				最大12			最大10		

※散布薬剤は、水稲の生育状況や病害虫発生状況を考慮し登録内容を確認して散布して下さい。

※空散防除体系の本田防除薬剤は、病害虫発生状況などによりJAさがえ西村山航空防除連絡協議会で協議決定しますので、使用薬剤が変更になる場合があります。

※ダブルカットKフロアブルの使用が困難な場合、アミスタートレボンSEを使用する。

※「つや姫」については、特別栽培米タイプのみの栽培体系となりますので、使用薬剤、成分回数にご注意下さい。

注 1 あきたこまちなどの早生種は、収穫前日数の使用基準に特にご注意下さい。

農薬の適正使用、飛散防止に努めましょう!!

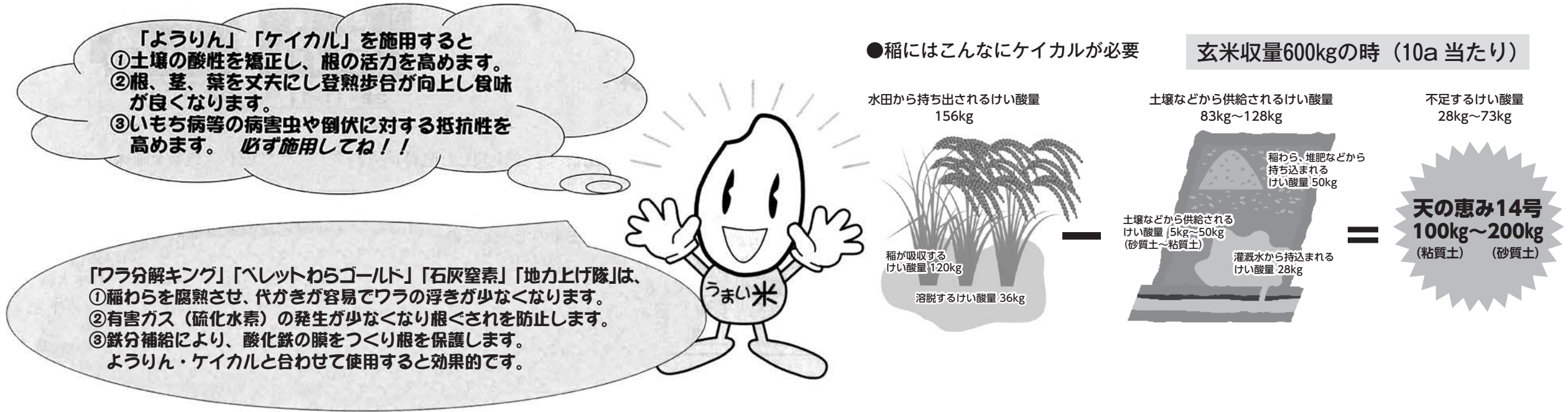
Ⅱ．施 肥 基 準

1．食味値80以上、低タンパクの高食味米・安定した「清流寒河江川」の生産は土づくりから

- ◆食味分析結果によると土づくり肥料を施用している米は、食味値がより高く、品質、耐病性、耐倒伏性の向上と、生産の安定性が増すことが明らかです。毎年継続して散布して下さい。
- ◆土づくり実践集団による共同散布を毎年継続実施し生産された『土づくり安心米（減農薬米）』をこだわり米として大幅に拡大し有利販売しています。

(kg/10a)

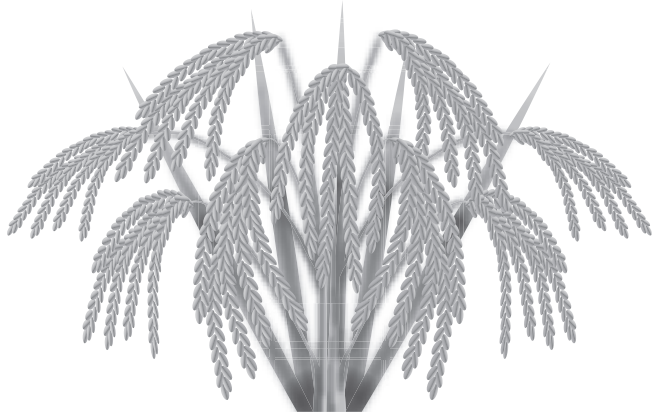
施 用 時 期		土づくり肥料名	特 性	普 通 田 (稲わら還元田)	摘 要
①	春又は秋	天の恵み14号	りん酸3％、＜溶性苦土5％ 可溶性けい酸27％、アルカリ46％	90～120kg	◎天の恵み14号はようりん1：ケイカル4を混合した省力土づくり肥料です。剤型：砂状
		けい酸加里プレミア	＜溶性苦土4％、＜溶性加里20％ 可溶性けい酸34％、＜溶性ホウ素0.1％	40～60kg (2～3袋)	◎病気や倒伏に強くなり、登熟歩合の向上と食味向上に効果があります。剤型：粒状
②	6月下旬～ 7月上旬	KSK28	可溶性けい酸28％、＜溶性加里17％	1.4kg (1本)	◎倒伏軽減、登熟向上、高温障害（胴割れ・乳白）対策に効果があります。剤型：液剤
③	秋	ワラ分解キング	低温時でも稲わら分解に効果を発揮する稲わら腐熟促進剤。特別栽培適合銘柄。	10kg (1袋)	◎稲わらに直接ふりかけ、施用後すぐに浅く耕起する。剤型：顆粒状
		ペレットわらゴールド	微生物を堆肥に培養した稲わら腐熟促進剤。特別栽培適合銘柄。	30kg (2袋)	◎散布後すぐに浅く耕起する。 2袋/10a。剤型：ペレット
		石灰窒素	窒素20～21％、アルカリ分55％ 稲わらなどの有機物を分解する微生物が好む環境にし、腐熟を促進する。	20kg (1袋)	◎散布後すぐに浅く耕起する。 稲わら腐熟促進を目的とすれば特別栽培米でも使用可能。地力の劣るつや姫圃場で10kg/10aまで。剤型：粒状・粉状
		地力上げ隊	窒素10％、アルカリ分25％ ケイ酸、マンガンを含むため、稲わらなどの腐熟促進に加え、土づくりの効果が期待できる資材。	40kg (2袋)	◎散布後すぐに浅く耕起する。 石灰窒素を含む。 稲わら腐熟を目的とすれば地力の劣るつや姫圃場で20kg/10a施用可能。剤型：粒状



《育 苗》 2．令 和 8 年 用 水 稲 施 肥 設 計 書

区 分	種 別	肥 料 名 (N－P－K)	一箱当たり所要量	摘 要
人 工 培 土	高 品 質	パールマット	1 袋で 約 7 枚分	育苗に必要な成分N P Kに加え苦土を含み、更にピートモス、パーミキュライトを配合した、通水、保水性の優れた培土で誰でも容易に安全に健苗がつかれる使いやすい人工培土。(N：1.5g P：1.5g K：1.5g／1枚)
	低コスト	JAさがえ西村山オリジナル培土	1 袋で 約 5 枚分	粉状のタイプで、 3 要素の肥料が配合された人工培土では、一番低コスト。
		いなほ育苗粒状培土	1 袋で 約 6 枚分	育苗後半まで、粒状を保つ 3 要素の肥料を配合した人工培土で、特に <u>覆土用</u> に使用すると土の持ち上がりがなくなるので最適。 (N：1.8g P：2.7g K：1.8g／1枚)
人 エ マット	軽 量 低コスト	パワーマット	30枚／1 ケース	ロックウール製のN P K成分を配合した人工マットで、軽く育苗作業が楽々、苗の持ち運びは、土の約半分の重さ。は種時はたつぷりと約2 ⅔の水を灌水する。土に比較し、水分量が多いので、 <u>育苗期間中の夜間の保温と、節水管理に努め追肥は早めに行う。</u> なお、覆土には育苗専用粒状培土を使用する。 (N：1.8g P：1.0g K：2.0g／1枚)
無 肥 床土混合	基肥追肥 一 発 型	新育苗一発313 (稚苗用) (13－11－13)	60 g	6 kg 1 袋で100枚分 育苗期間中の追肥が省略できる。(床土混合)
		新育苗一発313 (中苗用) (13－11－13)	80 g	8 kg 1 袋で100枚分 ”
肥料入り 床土混合	追肥省略型	エコロング413M100日 (14－11－13)	稚苗 50g / 箱、約200枚 / 1袋	100日タイプの育苗用コーティング肥料で、育苗期間の追肥を省略できる。 床土に混合しては種するか、は種前に機械散布で施肥もできる。コーティング肥料のため、被膜損傷に注意する。
			中苗 70g / 箱、約140枚 / 1袋	
追 肥		くみあい液肥 2 号 (10－4－8)	100倍液 500cc 灌注	6 ⅔ 1 缶で1,200枚分 水洗い不要 1.5葉期頃 (中苗は、1.8葉期頃) と田植え直前の 2 回
		硫 安 (21－0－0)	5 g／箱 ※300ccに溶かして灌注	20kg 1 袋で4,000枚分 葉焼けしないよう直後に十分水洗いする。
補助資材 (浸種・散布)		M R－X	薬液を水で100倍希釈して48時間浸種	1 L・18L 健苗育成、発根促進の効果が期待できる補助資材。窒素を含まない、微量元素が中心のため特別栽培にも使用可能。 浸種に使用した液を希釈して散布可能。
			育苗中、薬液を水で500倍希釈して散布	

高品質・低コスト・省力農業で清流寒河江川の生産を！！



【品種別施肥基準】

品種	施肥区分 ①	施肥区分 ②	肥 料 名	容 量 (kg)	成分(%)			10a当り施肥量		特 性
					N	P	K	現物量	(N-P-K:kg)	
はえぬき	基肥一発型	基肥一発	軽量安心米一発30	15	30	8	10	27kg	(8.1-2.2-2.7)	高窒素成分により現物量が少なく省力。 被覆尿素LP30により初期生育確保しやすい。
		基肥一発	全農型配合一発306	20	30	10	6	27kg	(8.1-2.7-1.6)	窒素30%のうち速効性15%、緩効性は30日と70日タイプの組み合わせ。 高窒素成分により現物量が少なく省力。
		基肥一発	エコマスター水稻一発555	20	15	5	5	54kg	(8.1-2.7-2.7)	鶏ふん堆肥入り肥料。緩効性80日タイプにより生育後半まで肥効が持続。低PK肥料のため、土づくり資材との併用を推奨。
		基肥一発	おもいやり有機200	20	12	10	10	67.5kg	(8.1-6.75-6.75)	被覆原料(プラスチック)が含まれていない環境配慮型肥料。 窒素12%のうち有機態 6 %、土壌微生物によって徐々に分解され、肥効が緩やかに持続。
	基肥＋追肥型	基肥	化成肥料14・14・14	20	14	14	14	43kg	(6.0-6.0-6.0)	化成肥料14・14・14については、従来の肥料より価格抑制を実現した肥料。速効性なため茎数を確保しやすい。 追肥は出穂25日前。
		追肥	はえぬき専用追肥NK22	20	20		20	10kg	(2.0- 0 -2.0)	
		基肥	はえぬき専用肥料(尿素系・塩安系)	20	15	17	15	40kg	(6.0-6.8-6.0)	ガスが発生しやすい圃場、秋落ち水田では基肥に塩安系肥料を使用する。 追肥は出穂25日前 はえぬき専用肥料は側条施肥にも対応する。
		追肥	はえぬき専用追肥NK22	20	20		20	10kg	(2.0- 0 -2.0)	
	はえぬき専用肥料＋側条肥料(ペースト)	基肥	はえぬき専用肥料(尿素系・塩安系)＋ペースト肥料	20 20	15 12	17 12	15 12	20kg 25kg	(3.0-3.4-3.0) (3.0-3.0-3.0)	はえぬき専用肥料に替えて化成肥料14・14・14を使用すると低コストになる。 追肥は出穂25日前
		追肥	はえぬき専用追肥NK22	20	20		20	10kg	(2.0- 0 -2.0)	
雪若丸	基肥一発型	基肥一発	軽量安心米一発30	15	30	8	10	27kg	(8.1-2.2-2.7)	高窒素成分により現物量が少なく省力。 被覆尿素LP30により初期生育確保しやすい。
		基肥一発	全農型配合一発306	20	30	10	6	27kg	(8.1-2.7-1.6)	窒素30%のうち速効性15%、緩効性は30日と70日タイプの組み合わせ。 高窒素成分により現物量が少なく省力。
		基肥一発	エコマスター水稻一発555	20	15	5	5	54kg	(8.1-2.7-2.7)	鶏ふん堆肥入り肥料。緩効性80日タイプにより生育後半まで肥効が持続。低P K肥料のため、土づくり資材との併用を推奨。
		基肥一発	おもいやり有機200	20	12	10	10	67.5kg	(8.1-6.75-6.75)	被覆原料(プラスチック)が含まれていない環境配慮型肥料。 窒素12%のうち有機態 6 %、土壌微生物によって徐々に分解され、肥効が緩やかに持続。
コシヒカリ	価格抑制肥料	基肥	化成肥料14・14・14	20	14	14	14	22kg	(3.1-3.1-3.1)	追肥は出穂15 ～ 20日前
		追肥	はえぬき専用追肥NK22	20	20		20	7.5kg	(1.5- 0 -1.5)	
ひとめぼれ	価格抑制肥料	基肥	化成肥料14・14・14	20	14	14	14	32kg	(4.5-4.5-4.5)	追肥は出穂20日前
		追肥	はえぬき専用追肥NK22	20	20		20	10kg	(2.0- 0 -2.0)	
あきたこまち	価格抑制肥料	基肥	化成肥料14・14・14	20	14	14	14	35kg	(4.9-4.9-4.9)	追肥は出穂20日前
		追肥	はえぬき専用追肥NK22	20	20		20	10kg	(2.0- 0 -2.0)	

※雪若丸は「土づくり安心米体系」で申し込みされた圃場でのみ、上記施肥基準に該当となります。「特別栽培体系」では使用できません。